

2020 年度
「若年にんしん SOS 沖縄」事業報告書



Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION

一般社団法人
おきなわ子ども未来ネットワーク

若年にんしんSOS沖縄事業の紹介

○若年にんしんSOS沖縄について

生まれる、生まれたい、産む、産まない、育てる、育てて貰う
私たちは全ての命に誠実（SINCIA）に寄り添います。

もしかしたら、にんしん？
どうしたらいいの？

- 生理がこない！
- 誰にも言えない
- 妊娠検査薬を買えない

- 妊娠して、どうしたらよいか
わからない。
- 病院にも行けない

LINE
で
相談

ひとりで悩まずに
「若年にんしんSOS沖縄」に相談を
(秘密は守ります)

QR
コード

- 妊娠についての
さまざまな悩みに
寄り添います！

- 相談は無料
- 妊娠の相談はお早めに

妊娠検査薬あなたのもとへと届けます（無料）

一緒に検査

妊娠してなかった！
あなたにぴったりの
避妊方法を教えます！

妊娠反応がプラスだった
産婦人科受診同行
(自己負担なし)

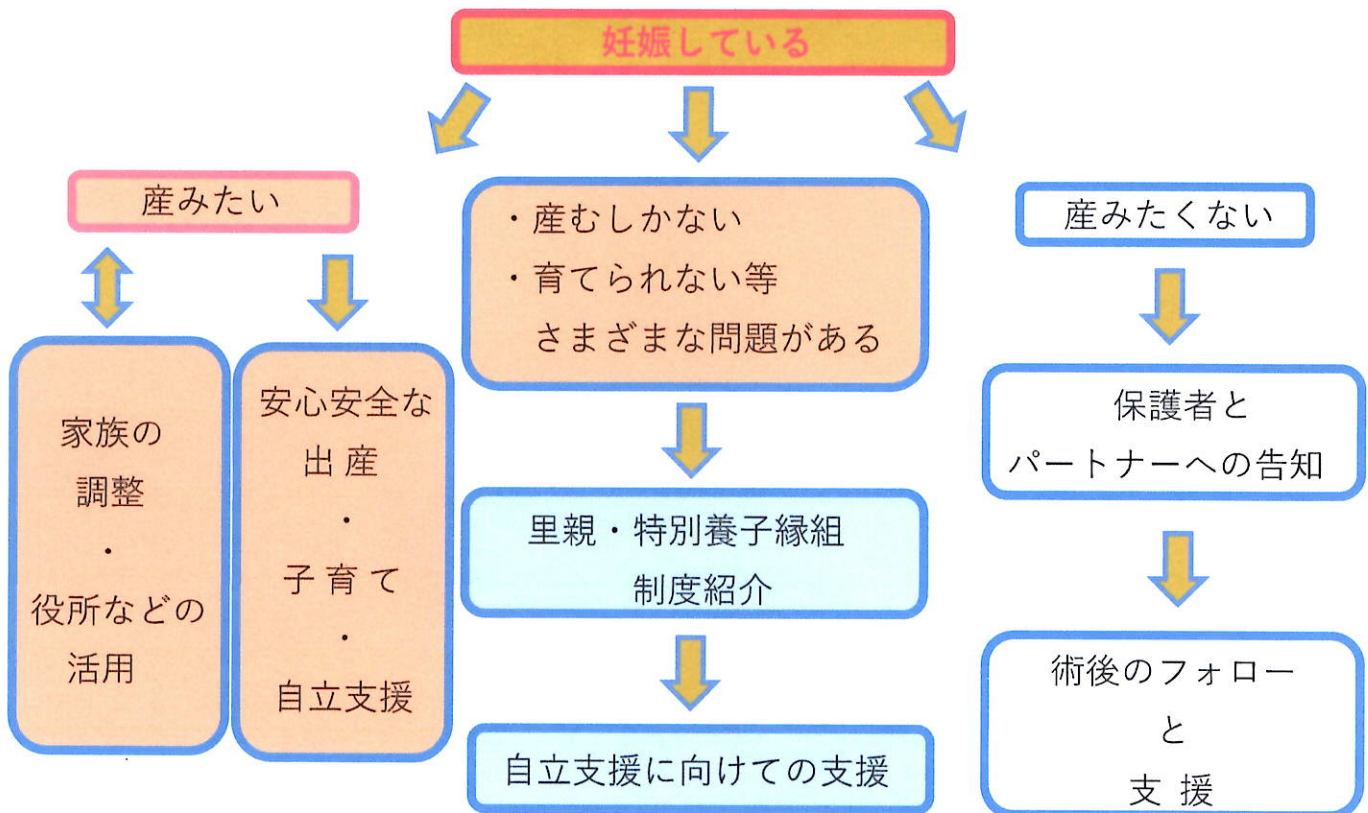
妊娠反応が陰性（-）だったあなたへ

○ひとまず安心しましたね。不安な思いをしたあなたと避妊やライフプランについてお話したいと思います。

妊娠反応が陽性（+）だったあなたへ

- 妊娠しているという結果を受けとめ、まず一緒に産婦人科を受診しましょう。（自己負担はありません）
- 妊娠が確定すれば、下記チャートに従い、急いで対応しましょう。（専門家がサポートします。もちろん無料）
- 親やパートナーへの告知、産む、産まない、産んで育ててもらおう等の選択は本人の意志を尊重します。
- 出産することが決まったら必要な関係機関と連絡をとり、産まれてくる赤ちゃんとお母さんが安全、安心して生活できるようにお手伝いします。

そうしたい、そうするのがいいとあなたが決めた選択に付き添います。



*すべての支援に自己負担はなく、何度も利用できます。

II. サポーター制度について

1. サポーターの役割と配置状況

・サポーターの役割の重要性

この事業において、サポーターは重要な役割を果たしている。サポーターがいなければこの事業は成り立たないと言っても過言ではない。サポーターは、10代女性が妊娠検査薬を利用したいが精神的、金銭的に困難であるとの相談や、あるいは、妊娠反応検査を自ら行い、陽性であったが産婦人科病院等を受診する上で、経済的に難しい、ひとりで行くのは不安であるといった相談がLINE等を通して寄せられた場合、実際に支援にあたる役割を担っている。そのため、若年妊娠の支援に理解があり、熱意をもって取り組める人材であることが重要である。

・サポーターの配置状況

サポーターは宮古島圏域、八重山圏域をふくめた県内各地に配置されており、相談のあった女性の居住地やニーズに合わせてサポーターが派遣される。令和元年6月にSOS事業開始後、那覇市をふくむ南部地域で活動できるサポーターのマンパワー不足が生じたため、令和元年11月30日に急遽追加の養成研修を実施した。

令和2年度は、4月に転勤等により数名のサポーターの入れ替わりがあったため、令和2年6月13日に新たに9名の新規サポーター研修を行い、各圏域におけるサポーター配置状況は以下の通りである。

〈沖縄県内のサポーター配置状況〉

北部圏域	8人
中部圏域	8人
浦添・宜野湾圏域	2人
那覇・南部圏域	8人
八重山圏域	3人
宮古島圏域	3人
合計	32人

2. サポーターの背景

・サポーターの多くは有職者であり、職種は保健師、助産師等の医療関係者7人、福祉関係者15人、自治体関係者3人、教育関係者4人、その他2人となっている。今回、新たに

9名のサポーターが誕生しているが、職種は広がり、多様なニーズに対応できるようになりつつある。サポーターは当然すべて女性であり、日頃から沖縄県の若年妊娠問題に高い関心を寄せているため、SOS 事業の必要性を理解し、ボランティアで活動することに賛同している。

3. サポーター研修について

サポーターは支援の必要性、妊娠の仕組みや性教育等について学ぶ「養成研修」を受講することで、登録される。今年度の養成研修はコロナウィルスの影響もあり、実施が危ぶまれたが、2020年6月13日に実施し、9名の新たなサポーターが誕生した。

2020（令和2年）年7月11日には、サポーター養成研修Ⅱとして「児童相談所に寄せられる若年妊娠の現状と性の実態」（講師：後野哲彦氏—コザ児童相談所長）を実施し、20名が参加した。

2020（令和2年）年11月14日には、サポーター養成研修Ⅲとして「体や性に関する知識をもって、ノーと言える力を取り戻す」（講師：高里鈴代—元那覇市議、女性相談員）を実施し、21名が参加した。

2021（令和3）年3月13日、サポーター養成研修Ⅳとして「若年カップルの妊娠とDV」（講師：名嘉知恵理氏—沖縄DV加害者更生相談室研究員）を開催し、19名が参加、フォローアップ研修に努めた。

コロナ禍の中、参加者の検温、机・椅子の消毒、机の配置、通風等万全を期して行った。

4. その他

・サポーターの皆さんとは、「若年にんしん SOS 事業サポーター委託契約書」を結び、善良なる管理者の注意をもってサポーター業務の遂行に当たり、委託業務を遂行し、その結果をその都度書面で報告することとしている。また、業務上知りえた情報については秘密保持義務を課している。

・サポーターの皆さんは、年度初めにボランティア保険に加入し、ボランティア活動中の事故等については、補償することとしている。

III. 活動実績について

1. 支援活動状況

- ・「若年にんしん SOS 沖縄」における LINE の活用は、ほぼ定着しつつある。今年度も昨年同様、コンビニ、ファーストフード店、カラオケボックス、ボウリング場等へチラシ配布を行った。特に、これらの施設は不特定多数の客が利用する施設であり、中でもコンビニは日常的に若者が利用するので、コンビニからの SOS 利用度は高かった。
- ・昨年度末に行った県内中学校、高校生徒に対する携帯用カードは、今年も各学校の養護教諭の協力を得て、中学校 1,241 枚、高校 9,163 枚配布することができた。多くの若者に、安心して、気軽に相談できる場所があるということを知って貰えればと思う。
- ・今年度の特徴として、コロナウィルスの影響を受け、各相談機関で妊娠している女性が増えているという報道があったが、当相談機関においては、特に妊娠している女性が増えているということはない。しかし、妊娠しているかもしれないという相談は明らかに増えていた。
- ・中には避妊をせずにセックスをしてその翌日に、妊娠したかもという 15 歳の少女からの相談もあり、殆どの少女が避妊をするという男性の言葉を真に受け、本人は無防備な状態でセックスしている状況が伺えた。幸い妊娠検査薬を実施する前に生理がきたという少女が大半であったが、自分の体は自分で守るということと、唯一 100%確実に避妊できる方法があるということをお知らせすることができた。
- ・本事業を実施して 2 年目になるが、今回この事業を活用した少女から思いがけない申し出があった。若年にんしん SOS を利用し、妊娠検査を行い、プラスであったのでサポーターと産婦人科病院を受診した。しかし、今回は産むことができず、中絶することになったが、サポーターさんから励ましの言葉を貰い、無事中絶をすることが出来た。その間、サポーターさんからの温かい声掛けに勇気づけられ、自分も仕事をして働けるようになったら、ぜひサポーターになりたいと思っている。サポーターになるには資格がいりますか？との問い合わせであった。
- ・沖縄には「ゆいまーる」という言葉があるが、まさにその言葉を思い出した。お世話になった子がお世話をする、こんなうれしいことはないと言ったサポーター全員で喜びあった。そして、サポーターには資格はないです、この事業のお手伝いをしたいという気持ちがあれば十分ですと伝えた。
- ・令和 2 年度はコロナに始まり、コロナで終わった。その間、若年にんしん SOS にも全く影響がなかったとは言いがたいが、幸いサポーター全員はコロナ禍にもめげずに、妊娠検査薬を持参し、一緒に検査を行い、そしてプラスであれば産婦人科病院へ同行するというのをしっかりと実施することができた。

(1) LINE 対応件数

	登録のみ (件)	LINE 対応数 (件・実数)	合 計
令和2年4月	14	21	35
5月	5	30	35
6月	26	23	49
7月	11	16	27
8月	14	13	27
9月	4	8	12
10月	20	13	33
11月	17	14	31
12月	13	21	34
1月	17	20	37
2月	13	15	28
3月	15	18	33
合計	169	212	381

・令和2年4月～令和3年3月までのLINE対応件数は上記の通りである。1年を通して相談件数はあり、今年の特徴として、コロナが出始めた4月～6月は多く、特に6月は最多であった。昨年は夏休み明けの9月が最も多かったが、今年度は最少であった。

・またLINEでの対応件数は212件あり、その大半はセックスをしたが生理が来ないという相談であった。まさに、初めてセックスをして妊娠の不安を抱えているという少女たちであり、LINEでのやり取りをしているうちに生理がきたという相談が38件あった。よって妊娠検査には至っていないが、本人と共に妊娠したかもという不安を共有することにより、確実に次の避妊への指導に繋げていくことが可能となる。これを私たちは「生きた性教育」と呼んでいる。

・その他、自治体や学校関係者からの紹介により、直接保護者から娘が妊娠しているかもしれない、どのように対応したら良いのかという相談も入るようになった。娘の妊娠問題で親子関係がこじれることがないように、妊娠が分かった初期の段階からの相談はとても重要である。

・娘の妊娠問題で、産むにしろ産まないにしろ一番頼りになるのは、母親である。特に若年で産むとなれば、母親の協力なくして、産んで育てることはできない。

・そのため、私たちはなるべく病院受診は保護者と共にということを提案するが、殆どの少女は、今は親に言いたくないといい、そのまま放置すると病院未受診になり兼ねないので、サポーターが病院受診同行を行っている。

・しかし、病院受診をして妊娠週数がわかると、産むにしろ、産まないにしろ、次は保護

者と来るようにと医師から言われるので、少女たちは親に告げることを決断せざるを得ない。

・その時に、身近に相談できる母親がいればとつくづく思うことがある。残念ながら離婚率が全国一という状況が長年続いている沖縄では、両親が離婚後父親に引き取られたり、また母親が再婚して他の男性と世帯を持ったり等身近にいない場合が多い。そしてその寂しさから、彼氏に頼っていくというケースは多いが、妊娠という女性しか経験しえない出来事は、女性しかわからないことが多く母親の力は大きい。

・登録のみの件数が 169 件あるが、その件数はいずれ何かあったときに利用したいという将来支援対象となりえる予備軍ではないかと予想されるので、丁寧に返信は行うようにしている。

(2) サポーターの妊娠検査薬持参・病院同行支援件数について

妊娠検査薬実施件数	病院同行件数	合計
17 件	18 件	35 件

・妊娠検査薬実施件数 17 件、病院同行件数 18 件と実際にサポーターが支援したケースは 35 件である。年度当初からのコロナ禍の中、サポーターは妊娠検査薬と一緒に検査するため、ファーストフード店で待ち合わせをし、実施の結果、マイナスかプラスかにより少女たちと一喜一憂し、まさに天国か地獄かという運命の分かれ道を経験する。

・また病院受診同行においては、事務局が病院受診予約を行い、サポーターは予約時間に間に合わせて病院で少女と対面するが、診察室で妊娠週数を告げられるまでは、緊張に堪えない。医師より胎児のエコー写真を頂き、次回は必ず保護者と受診するように告げられると、殆どの少女がそこで保護者へ告げることを同意する。親としての自覚が芽生える瞬間ではないかと思う。

・中には病院受診の約束の時間になっても現れず、直前になってのキャンセルが 4 件あったが、せめて事前に連絡だけでもして貰いたいと、サポーターや無理に予約を入れて頂いた病院のためにも思う。

・サポーターの支援は妊娠を保護者に伝えられたかどうかまでを LINE 等で確認し、未受診等が起こらないようにすることをゴールとしているが、妊娠週数が進んでいる場合には本人の同意を得て、市町村役場に繋ぎ、母子手帳の取得を支援する場合もある。

2. 多様な支援の必要性

・昨年同様妊娠検査薬で陰性だった場合には、「妊娠検査が陰性（－）だったあなたへ」というパンフレットを手渡し、適切な避妊方法、ライフプランに合わせたバースコントロールの重要性などについて情報提供を行うとともに、もし、もう一度同じことで悩んだときには、

必ずまた、相談してほしいとのメッセージを送っている。

- ・一方、妊娠の確定診断後、人工中絶を選ぶ場合の費用の問題は大きな課題である。特に今年度はコロナウィルスの影響で、中絶を希望する女性からの中絶費用の件での相談が多かった。妊娠という行為には、女性だけでなく、男性の存在もあるが、いざ妊娠すると女性ひとりで解決することが非常に多い。この問題をどうするのか、永遠の課題にして貰いたくないと切に願う。

- ・さらに、適切な避妊についてもその多くは男性側の理解や協力が必要である。多くの若年女子は男性の避妊をするという言葉信じて性行為に応じてしまうが、結果的には避妊をせずに少女たちを不安に陥れる。

- ・せめて女性が確実に避妊できるピルが、手軽に入手できる方法を講じてほしいということが言われているが、果たして若年女子がそれを継続して購入できる費用を工面できるかどうか、問題は多い。

- ・「若年にんしん SOS 沖縄」事業を通して、若年女性を望まない妊娠、出産からどのように守っていくのかという課題が毎年、浮き彫りになっていく。さらにこの事業を継続していく中で、個々の事例を積み上げていき、実情に合わせた、さらなる具体的な支援を検討していく必要があると思われる。

IV. 事業周知活動について

1. ちらしの配布状況

LINEのQRコードを印刷したチラシ(A4)は、「若年にんしんSOS沖縄」につながる大事なツールである。これなくして、妊娠で悩んでいる不特定多数の女性とつながる方法はないといっても過言ではない。今年もこのチラシを2,000枚作成し、これはおもに、企業や学校等の協力を得て女性用トイレの壁等に掲示してもらった。

企業については、昨年同様、沖縄県内に事業本部をもつファストフード店、コンビニエンスストア、カラオケボックス団体、ボウリング場団体等に協力依頼を行い、多くの企業からちらしの掲示許可を得ることが出来た。10代女性の中には「ファミリーマートのちらしをみて」「A&Wのトイレで知った」と言った声が聴かれ、特に学校へ行っていない10代女性にとっては、大事なツールとなる。一方で、全国展開をしている企業については、法人からの協力を依頼するためのアクセスが難しく、個々の店舗に依頼をするしか方法がなく、効率的な情報周知を行うことの難しさを感じた。

次に学校については、当初学校の女子トイレに掲示してもらえれば多くの10代女性に情報が届くのではないかと期待していたが、学校関係者より「学校にスマートホンを持ち込むことを禁止している学校が多く、QRコードでつながることは難しい」との指摘を受けた。そこで急遽、携帯できるカード型の周知ツールを作成することになった。

〈ちらし配布状況〉

学校関係	100枚
企業	1,190枚
自治体(県・市町村)	100枚
若年女性支援者・支援団体	200枚
合計	1,590枚

〈協力企業一覧(再掲)〉

沖縄県ボウリング場協会	40枚
沖縄県カラオケスタジオ協会	120枚
沖縄ファミリーマート	330枚(全店舗)
A&W沖縄	50枚
ローソン沖縄	650枚(県との提携店舗)

2. カード配布状況

学校関係者より子どもたちが持ち帰ることのできるカード型ツールの必要性については今年も要望があり、20,000枚作成した。折り曲げると縦9cm横6cmほどの大きさになり、トイレ等に設置した場合容易に持ち帰ることが出来るようにした。ちらしと同じように、カードにもQRコードを印刷した。

カードについては、今年も学校関係者より10,404枚の配布希望があり、配布を行った。時期的に、卒業を迎える生徒全員に配布する高校もあり、学校によって温度差があった。

多くの離島を抱える沖縄県では高校進学の際に親元を離れる10代女子がおり、そのような学校にとっては必要なツールとなり、今年も要望が見られた。

ただ中にはまだ、教育現場での性教育の難しさについて「寝た子を起こすな」という風潮が残っているのか、昨年希望した学校は今年も希望するが、新たに希望する学校は見られなかったもので、そういう学校についてはこちらから積極的に送ることにした。

しかし今回もカード配布については、沖縄県内の半数以上の高校や多くの中学校からも提供を希望する声が寄せられ、教育現場でも10代妊娠の問題が共有され、真摯な対応が求められていることがわかる。

市町村関係者からも昨年同様配布希望があり、自治体によっては困難家庭を支援していることもあり、10代女性の妊娠は特別のことではなく普通に見られるが、病院受診料などを直接支援することは難しいので、自治体で活動する支援者がこの事業を理解し、必要に応じて支援を必要とするケースにカードを配布し、情報提供を行うということがみられた。

〈学校関係カード配布状況〉

高等学校	8,976枚
中学校	1,241枚
特別支援学校	187枚
合計	10,404枚

「若年妊娠SOSおきなわ」サポーター養成研修Ⅰ

日時：2020年6月13日（土）13時～17時
場所：読谷村地域振興センター2階大会議室
読谷村字喜名 2346-11

司会：（一社）おきなわ子ども未来ネットワーク
相談支援員 東江 令奈

プログラム

1. 一般社団法人おきなわ子ども未来ネットワーク代表挨拶 13:30～13:35
2. メンバー・サポーター自己紹介 13:35～
13:50
3. 養成研修 13:50～ 16:15
 - (1) 若年妊産婦の現状とサポーターの役割・・・代表理事 山内 優子
 - (2) 妊娠・出産・性教育について・・・助産師 笹良 秀美
 - (3) 妊娠検査薬・受診費用の取り扱いについて・・・東江 令奈

令和2年度

一般社団法人 おきなわ子ども未来ネットワーク

「若年にんしん SOS 沖縄」サポーター養成研修 II

日時：令和2年7月11日（土）13時（開場、受付）～17時

場所：読谷村地域振興センター2階大会議室

プログラム

1、講話 「児童相談所に寄せられる若年妊娠の現状と性の実態」

講師：コザ児童相談所長 後野 哲彦 氏

13時30分～15時

2、「若年にんしん SOS 沖縄」事業、現状報告

15時20分～16時30分

3、その他

- ・サポーター委託契約を行いますので、印鑑を押印して一部提出提して下さい。
- ・病院同行した方は診察代を精算して、1万円受け取ってください
- ・妊娠検査薬必用な方は受け取ってください

※片付けのご協力よろしくお願いたします



令和2年度

一般社団法人 おきなわ子ども未来ネットワーク

「若年にんしん SOS 沖縄」サポーター養成研修Ⅲ

日時：令和2年11月14日（土）13時（開場、受付）～17時

場所：読谷村地域振興センター2階大会議室

プログラム

1、講話 「体や性に関する知識をもって、ノーと言える力を取り戻す」

講師：高里 鈴代氏

13時30分～15時

2、「若年にんしん SOS 沖縄」事業、現状報告

15時15分～16時

3、その他、リングキャンペーンについて

16時～16：30分

・病院同行した方は診察代を精算して、1万円受け取ってください

・妊娠検査薬必用な方は受け取ってください

※片付けのご協力よろしくお願いたします



令和2年度 一般社団法人 おきなわ子ども未来ネットワーク

「若年にんしん SOS 沖縄」サポーター養成研修 IV

日時：令和3年3月13日（土）13時（開場、受付）～17時

場所：読谷村地域振興センター2階大会議室

プログラム

1、講話 「若年カップルの妊娠とDV」及び意見交換会

講師：名嘉 知恵理 氏

13時30分～15時

-----15分休憩-----

2、「若年にんしん SOS 沖縄」現状報告と次年度に向けて

その他 若年妊産婦の居場所事業について

15時15分～16時30分

※旅費交通費等の精算を済ませてください（全員）

※妊娠検査薬と「妊娠検査が陰性（-）だったあなたへ」が必要な方は

お持ち帰りください。

※片付けのご協力よろしくお願いいたします



「若年にんしんSOS沖縄」事業経過記録（2020年度）

令和2年4月10日	・令和2年4月10日：サポーター27名ボランティア保険加入
令和2年4月24日	・妊娠SOS携帯用カード県内中・高校へ14,325枚発送終了
令和2年4月27日	・若年にんしんSOS沖縄事業報告書印刷発注
令和2年5月1日	・妊娠7ヶ月の病院未受診女子H/Yから電話相談。内密出産を希望し県外へ行く予定がコロナのため行けない。家にはおれない、行くあてがないとの訴えあり。
令和2年5月2日	・病院未受診のH/Yを病院同行。出産予定日：7月25日。胎児の発育は順調。親には絶対妊娠を知られたくない。
令和2年5月6日	・H/Yを預かってくれる県外施設を再度探してもコロナのため受け入れ不可。
令和2年5月12日	・令和2年5月12日：H/Yを県内で預かってくれる施設等探すが、妊婦を預かる施設無し。民間人等も含め検討し、村内の看護師の資格を持つK家に出産まで預かって貰うことを依頼する。
令和2年5月13日	・20歳で3歳と1歳の子どもを持つ女性より、現在妊娠6週、中絶費用が一括して払えない。夫はコロナで失業し、現在求職中。分割可能な病院を紹介して欲しいと電話。分割できる病院はないので、何とか費用を工面して欲しいということ伝える。
令和2年5月15日	・H/YをK家へ委託。
令和2年5月25日	・若年妊娠SOS沖縄事業報告書200部完成。県内市町村・関係機関へ発送業務開始。
令和2年6月13日	・令和2年度新規サポーター養成研修I実施（9名参加）。場所：読谷村地域振興センター大ホール
令和2年6月16日	・那覇市子育て包括支援センター職員来所（2名）。事業概要説明
令和2年6月19日	・沖縄県里親支援員専門員来所（5名）。事業概要説明
令和2年6月24日	・新規サポーターボランティア保険加入（9名）
令和2年7月11日	・令和2年度サポーター研修II開催（20名参加）場所：読谷村地域振興センター大ホール。講師：後野哲彦コザ児童相談所長 「児童相談所からみた若年妊娠問題」
令和2年7月22日	・サンシャイン「ゆいまーる寄付金」贈呈式参加
令和2年8月1日	・法人独自の「リングキャンペーン」実施のための周知文書を各市町村へ送付開始。
令和2年8月20日	・那覇市、沖縄市よりリングキャンペーンの問い合わせあり。
令和2年8月25日	・リングキャンペーン利用届作成、市町村配布。

令和2年8月28日	沖縄市若年妊産婦居場所「ゆくるん」訪問
令和2年9月14日	・沖縄ファミリーマートにチラシ350枚持ち込み、県内の店舗へ配布依頼を行う。
令和2年9月18日	・今帰仁村役場よりリングキャンペーン申込あり。
令和2年10月6日	・宜野湾市役所の要対協実務者会議にて「若年妊娠SOSについて」講演：山内、東江対応
令和2年10月8日	・沖縄県議会「子どもの未来応援特別委員会」へ参考人として招致され、意見を述べる。
令和2年10月27日	・沖縄県中央児童相談所、コザ児童相談所との連絡会開催
令和2年11月14日	・令和2年度サポーター研修Ⅲ実施 場所：読谷村地域振興センター（講師：高里鈴代氏）21名参加
令和2年11月16日	・第23回源河朝明基金贈呈式参加。
令和2年12月15日	・日本財団ウェブ研修受講（1日）
令和3年1月12日	・日本国際事業団（ISSJ）オンライン研修受講
令和3年1月14日	・うるま市若年妊産婦居場所「ここまる」訪問
令和3年1月20日	・養子縁組あっせん機関ベアホープ研修ウェブ参加
令和3年1月23日	・RBC狩俣倫太郎特別教育番組出演（山内対応）
令和3年2月12日	・厚生労働省主催養子縁組特別あっせん機関ウェブ研修参加
令和3年2月24日	・名護市家庭児童相談室研修会参加（講師：山内、東江）
令和3年3月9日	・養子縁組あっせん機関ベアホープ研修ウェブ参加
令和3年3月13日	・令和2年度サポーター研修Ⅲ実施（講師：名嘉ちえり氏）19名参加
令和3年3月17日	・沖縄県立中部病院周産期センターとの連絡会議参加
令和3年3月19日	・コロナ対策用品納品
令和3年3月23日	・妊産婦宿泊型居場所「まりやハウス風のいえ」契約 令和3年4月1日：「まりやハウス風のいえ」入居予定。
	<p>< 実績報告 ></p> <p>令和2年度LINE受付：友達承認（LINE登録）381件、LINE相談件数：212件、妊娠検査薬配布17件、病院同行件数18件、サポーター対応件数：合計35件</p>